

公益社団法人日本包装技術協会

事業の一覧

事業区分		事業の内容
公益目的事業	公1	＜講座、セミナー、育成事業＞ 包装に関する知識の習得と技術の向上を図ることを目的とする事業 （管理士講座、アカデミー、セミナー、コース、研究会、フォーラム、研究大会、懇話会） ＊支部で行っている事業はすべてここに属し、公1として扱う
		＜体験活動等事業＞ 包装に関する体験活動を通して知識の習得と普及を図ることを目的とする事業 （海外視察団、見学会）
		＜表彰、コンクール事業＞ 包装に関連した技術やデザインの啓発を目的として行われる事業で、入賞作品はすべて展示会において一般公開される （パッケージングコンテスト、木下賞）
	公2	＜展示会、ショー事業＞ 包装の最新情報を内外の関連分野に対して啓発、普及を行うことを目的とする事業 （東京国際包装展、暮らしの包装商品展）
	公3	＜調査、資料収集事業＞ 委託による調査及び資料収集が中心となっており、結果は報告書や規格となって一般に公表される （ISOに関する活動、JISに関する活動、統計）
収益事業	収1	＜出版事業＞ 毎月刊行されている当会の機関誌の出版に関する事業。雑誌は会員には無料、一般には有料で配布されている。その他、非定期的に包装に関する単行本等を刊行

＊その他行事：総会、新年会等

平成 27 年度事業報告

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

昨年は、経済政策「アベノミクス」が一層スピード感をもって進められ、円高の是正や株価の上昇等により、長年の経済的な停滞感やデフレ経済からの改善が見られたが、要となっている成長戦略には、実感できるような成果はなかった。今後は、財政健全化、エネルギーの安定供給と経済性の確保、さらに地方創生の推進等、成長戦略として掲げた具体的な政策へのきめ細かな取組みを通して、経済の好循環を全国に拡大させ、国民生活の向上を図っていくことが最優先課題となる。

このような情勢の中で今、包装産業は近未来を見据え、今までに構築してきた技術力や幅広い知見を生かして、一層の高度化、多様化そしてグローバル化等に適切に対応していくことが求められている。特に、包装が食の安心・安全やセーブフード（Save Food）といった最近の社会からの要請に添えていくためには、品質保持期間や賞味期限の延長、さらに包装材料の適切な選択が求められ、その対応には高度な技術の開発が必要となる。他方、社会のグローバル化が進む中、包装業界においてもこれからますます海外とのつながりを意識した展開が必要になってくると思われる。

このように包装分野においても大きな変化が感じられる状況の中で、当会の事業は概ね年度活動方針および事業計画に沿って実施された。当会の主要公益目的事業の一つであり、協会の柱となっている包装人材育成事業（管理士講座、包装アカデミー講座、等）や情報提供事業は、本年度も当初計画通りの成果をあげることができた。特に、包装管理士講座は大きな節目の第 50 期を迎え、昨年を上回る 419 名の受講生を得て仙台、東京、名古屋、大阪及び福岡の 5 都市で開催された。半世紀を経て、包装管理士有資格者は 12,665 名となった。また、包装アカデミー講座は今期もまた輸送包装、食品包装、医薬品包装及び包装材料の 4 コースが開講されたが、食品包装コースは今期第 30 期という節目を迎え開催された。アカデミー講座は今期もまた歴代最多に並ぶ 53 名の受講者数を得て、実施された。

他方、今年度は暮らしの包装商品展 2015 を千葉県船橋市の「ららぽーと東京ベイ」において開催した。都内を離れ、大型商業施設を借りての開催は初めての経験であり、心配もあったが、3 日間の開催で 1 万人以上の来場者を得て盛況裡に開催することができた。

6 月に当会の運営組織及び事業活動の状況に関する内閣府の立会い検査が実施された。公益社団法人に移行して 3 年が経過し、この 3 年間における当会の運営、活動及び財務の面から詳細な検査が行われた。結果として、移行後の細かな手続き等に対して指摘があった他は、いずれの分野でも問題なく終了した。

今年度の会員は、入会 56 社、退会 35 社で、年度末会員数は 1,163 社であった。

公益社団法人として活動を始め、1 月 1 日で 4 年が経過した。今後も適正包装の推進や人材育成の強化等、公益事業の実施に対して一層の叡智と努力を傾注し、豊かな社会の構築と活力ある包装産業の実現を目指して邁進したい。

第1 事 業

1. 研修、育成、交流事業、普及啓発 (公益目的事業 1)

当会の主要事業の一つである人材育成事業は、本年度もまた当初計画以上の成果を得て、開催することができた。特に、大きな節目となった第50期の包装管理士講座は、今回もまた開講から終講までおよそ3ヶ月という長期の講座にもかかわらず、419名の参加者を得て、仙台、東京、名古屋、大阪及び福岡の5会場で当協会支部の支援のもとに開催した。受講生は全員、講義一筆記試験一面接試験という講座の過程を経て、424名（前期からに再受講者22名を含む）が合格し、包装管理士の称号を授与された。また、包装管理士講座の上位部に位置する包装アカデミーコースも今までで最も多くの受講生を得て実施され、全課程を修了した53名があらたに包装専士として認定された。他に、専門コース、セミナー、シンポジウム等、教育にかかわる事業は各支部のもとで開催され、概ね盛況裡に開催することができた。

包装の普及啓発を目的として開催しているパッケージングコンテストは、本年度、第37回目の開催となり、300点以上の応募の中から大賞（ジャパンスター賞）として14点が選ばれた。本コンテストの最大の特徴は、審査員は、全員が経済産業省をはじめとする公的組織からの代表や学識経験者によって構成され、企業からの参加はないことである。入賞したパッケージはすべて、9月に千葉県船橋市の「ららぽーと東京ベイ」で開催した「暮らしの包装商品展2015」展において展示された他、選定理由を和英で作成し、写真つきで国内及び全世界に広報を行った。

交流事業は、海外事業として10月にスウェーデンにおいて開催されたスキャンパック2015展への視察団を派遣した。本視察団はスウェーデン大使館の支援のもとで実施され、展示会視察の他、現地包装関係施設の見学や包装関係者とのミーティング、さらに懇親会等に参加した。日本側の参加者は15名。また、スウェーデン側からの参加者の多くは、2016年10月に当会が開催する東京パック2016への出品者としてまた来場者としての参加が寄せられた。

協会創立以来一度も欠かしたことなく開催している全日本包装技術研究大会は、第53回目の開催となり福岡で開催した。全国から330余名が参加し、地方で開催するイベントとしては大盛況であった。

<研修、育成事業> (公益目的事業 1)

- 1) 第50期包装管理士講座 6月3日(水)開講～9月4日(金)終講
受講者 419名 合格者 424名（前期からの再受講者22名を含む）
合格者内訳 東京会場 192名 大阪会場 94名
名古屋会場 70名 福岡会場 42名
仙台会場 26名 札幌会場 ー
以上の結果、包装管理士有資格者は12,665名となった。

- 2) 包装アカデミー 6月8日(月)開講～3月4日(金)終講
(1) 第29期輸送包装コース 受講者 6名 合格者 6名

(2) 第30期食品包装コース	同	15名	同	15名
(3) 第29期包装材料コース	同	16名	同	16名
(4) 第28期医薬品包装コース	同	16名	同	16名
計		53名		53名

今期は53名が合格し、包装専士の称号が与えられた。これで包装専士有資格者は1,181名となった。

3) 第53回全日本包装技術研究大会

11月19日(木)～20日(金) 2日間 福岡市・電気ビル共創館

輸送包装、生活者包装、食品包装、医薬品包装、化粧品包装、環境包装、電気機器包装及び包装資材の8部会に66件の発表があった。

参加者339名

<特別講演>

グローバル競争時代の日産自動車九州のロジスティクス戦略

日産自動車九州㈱ 代表取締役社長 柴崎 康男氏

4) 研究会、セミナー、シンポジウム等の研修活動

(1) 機能別包装研究会

① 包装資材研究会

第207回 6月25日(木) JPI 会議室 参加者158名

『段ボール開発動向 (ディスプレイ段ボール等)』

王子コンテナ㈱ 営業本部 CS推進部 (静岡) 担当部長 中村 圭太 氏

第208回 9月30日(水) JPI 会議室 参加者169名

『詰め替え用スタンディングパウチの最新動向』

大日本印刷㈱ 包装事業部 開発本部 製品開発部

バリューパッケージ開発チームリーダー 大塚 康司 氏

第209回 2月25日(木) JPI 会議室 参加者181名

『イーザーピールシーラントの原理・特徴とその用途展開』

ジェイフィルム㈱ 製品開発部 部長 鍛冶屋敷 誠 氏

第210回 2月25日(木) JPI 会議室 参加者128名

『「ガラスびん」の基礎と技術動向』

日本山村硝子㈱ ガラスびんカンパニー 生産本部 技術開発部 型成形チーム

前田 泰志 氏

第211回 3月24日(木) JPI 会議室 参加者127名

『海外展示会にみる包装関連情報とトピックス、及び、米国・アジアの包装事例紹介』

(株)東洋紡パッケージング・プラン・サービス 技術総括部 部長 松田 修成 氏

②輸送包装研究会

第205回 5月27日(水) JPI 会議室 参加者65名

『国内実測データに基づくランダム振動試験条件の策定』

千葉大学大学院 園芸学研究科 生物資源科学コース

生物生産環境学領域・教授 椎名 武夫 氏

第206回 6月25日(木) JPI 会議室 参加者134名

『インドの輸送環境調査結果を反映した輸送評価基準の考察』

三菱電機(株) 住環境研究開発センター 設計・品質技術開発部

設備技術開発グループ 横山 彰久 氏

第207回 7月23日(木) JPI 会議室 参加者80名

『船舶貨物用振動試験の提案と青果物輸送損傷について

－PSDの作成から小笠原産パッションフルーツの輸送振動の影響について－』

東京都立産業技術センター 機械技術グループ

小西 毅 氏

第208回 7月23日(木) JPI 会議室 参加者86名

『段ボール箱の擦れ傷の発生挙動』

レンゴー(株) 包装技術部 包装評価センター 部長代理

東山 哲 氏

第209回 1月28日(木) JPI 会議室 参加者65名

『メキシコ最新物流事情』

三井住友海上火災保険(株) 海損部海外企画チーム 課長

小幡 毅 氏

三井住友海上火災保険(株) 海損部海外企画チーム 課長代理

嶋田 隆二 氏

③包装ラインシステム化研究会

第205回 8月20日(木) JPI 会議室 参加者76名

『食品異物検査の最新技術動向と今後』

(株)インダ 開発・技術部門 主幹技師

廣瀬 修 氏

第206回 9月30日(水) JPI 会議室 参加者168名

『軟包装における液体/粘体の製袋充填包装技術について』

オリヒロ(株) 専務取締役

鶴田 正貴 氏

第207回 12月17日(木) JPI 会議室 参加者84名

『医薬品無菌製剤製造・包装設備全般のご紹介』

ボッシュパッケージングテクノロジー(株)

国内医薬営業本部 医薬営業部

杉本 氏・石田 氏

第208回 1月28日(木) JPI 会議室

参加者92名

『テトラパックの無菌充填システムと eBeam テクノロジー』

日本テトラパック(株) 研究開発本部門

プロジェクトマネジメントシニアプロジェクトマネージャー

森山 育幸 氏

第209回 3月24日(木) JPI 会議室

参加者112名

『少量多品種に対応する最適なロボットのソリューション』

ABB(株)オートメーション・モーション事業本部

ロボティクス事業部 ロボット&アプリケーション部

菅井 康介 氏

④生活者包装研究会

第207回 4月23日(木) JPI 会議室

参加者75名

『素材革命、始まる。燃焼時にCO₂を削減する新技術 エコナノ』

サトーグリーンエンジニアリング(株) 部長

山室 博巳 氏

第208回 4月23日(木) JPI 会議室

参加者118名

『加熱調理ができる電子レンジ対応袋』

(株)メイワパックス 技術開発本部野田技術開発課

平田 達也 氏

第209回 8月20日(木) JPI 会議室

参加者50名

『容器・包装における日本石鹼洗剤工業会の活動』

～プラスチック削減20年の取り組みを振り返って～』

日本石鹼洗剤工業会 容器・廃棄物専門委員会 委員

佐藤 剛 氏

第210回 11月26日(木) JPI 会議室

参加者56名

『食品表示基準、栄養成分表示の策定をめぐって』

女子栄養大学栄養学部実践栄養学科・教授

山田 和彦 氏

第211回 12月17日(水) JPI 会議室

参加者86名

『高齢者・障害者感覚特性データベースについて』

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

人間情報研究部門 名誉リサーチャー

佐川 賢 氏

⑤包装情報研究会

第85回 5月27日(水) JPI 会議室 参加者38名
『成功率90%以上のビジネスマッチング「Linkers」の仕組み』
リンカーズ㈱ 統括マネージャー 長友 理恵 氏

第86回 10月29日(木) JPI 会議室 参加者84名
『再生 PET シートの事例紹介』
進栄化成㈱ PET 製造部・製造部長 岩崎 達也 氏

第87回 10月29日(木) JPI 会議室 参加者103名
『新食品表示基準～表示実施者が留意すべき事項～』
東京海洋大学 先端科学技術研究センター 教授 湯川 剛一郎 氏

第88回 11月26日(木) JPI 会議室 参加者60名
『包装容器開発への CAE 適用事例』
アルテアエンジニアリング㈱ 第2営業部 アカウントマネージャー 渡部 高史 氏

第89回 3月24日(木) JPI 会議室 参加者164名
『花王の容器包装～環境に配慮した容器包装～』
花王㈱ 包装容器開発研究所 室長 稲川 義則 氏

(2) 県別包装研究会

①平成27年度新潟県包装研究会 10月16日(金) 朱鷺メッセ 302 会議室 参加者52名
『新たな機能性表示制度－機能性表示食品の位置づけと活用－』
神奈川県立保険福祉大学 保険福祉学部 栄養学科 准教授 倉貫 早智 氏
『クレーム対策に役立つ異物検査～分析手法と事例の紹介～』
(一財)日本食品分析センター 多摩研究所 応用試験課 山田 瑠美子 氏

②平成27年度静岡県包装研究会 11月6日(金) あざれあ第1研修室 参加者50名
『美粧パルプモールドについて』
ダイナパック㈱ 開発本部 カスタマーソリューションセンター・
部長代理 川瀬 公基 氏
『包装改善事例』
アイパック㈱ 梱包設計部門 部門統括補佐 川添 健一 氏

(3) 包装懇話会の開催(主催: J P I 包装技術研究所)

①食品・流通包装懇話会	4回開催	登録者数	64名
②医薬品包装懇話会	4回開催	同	126名

③パッケージデザイン懇話会	4 回開催	同	3 8 名
④輸送包装懇話会	4 回開催	同	6 1 名

(4) セミナー・シンポジウム

- ①第20回化粧品包装セミナー 7月17日(金) スペース FS 汐留 参加者85名
「化粧品容器のトレンドと最新技術動向」
『化粧品ラベルの最新動向…「化粧品業界で使用するラベル材料の紹介」』
リンテック(株) 技術・開発室 営業技術グループ係長 原田 健司 氏
『化粧品ラベルの最新動向…「偽造防止技術 真贋判定印刷 (シールベクター)」』
(株)友功社 代表取締役社長 大野 玄太郎 氏
『レーザー加工を用いた化粧品容器への表面加飾について
ー加工技術とデザインの融合ー』
紀伊産業(株) 化粧品営業部 課長 片山 就介 氏
『化粧品容器の最新情報 (形態別トレンドについて)』
(株)トキワ グローバルテクノロジーセンター 主席研究員 井上 隆 氏
- ②第21回化粧品包装セミナー 3月4日(金) スペース FS 汐留 参加者78名
「パッケージ開発の進化と異業種との融合・加速」
『触動作センサーを活用した製品の「使いやすい」評価と改善事例』
大日本印刷(株) 包装事業部企画本部リサーチ&プランニング戦略室室長 安田 尚司 氏
『3Dデータを活用した化粧品のパッケージデザイン』
(株)コーセー 商品デザイン部 デザイン二課 スタイリングデザイナー 石井 敢歩 氏
『シニア向けコンパクトケースの開発事例』
花王(株) 包装容器開発研究所 上野 知美 氏
- ③第11回包装材料セミナー 1月29日(金) ソラシティカンファレンスセンター RoomC 参加者85名
「プラスチック添加剤の最新技術動向について」
『プラスチック添加剤の基礎及び容器のプラスチック化に対する BASF からのご提案』
BASF ジャパン(株) 高性能製品統括本部 プラスチック添加剤
ダウンストリームセールス 香川 正 氏
『プラスチック用マスターバッチの加工事例』
住化カラー(株) 開発本部 開発研究所 機能材料グループマネージャー 堀井 健吾 氏
『抗菌剤について (防カビ剤) とその利用』
一般社団法人 抗菌製品技術協議会 専務理事 藤本 嘉明 氏
『プラスチック添加剤の分析技術』
(株)三井化学分析センター 構造解析研究部 分析ユニット 主席研究員 馬場園和孝 氏

④第6回パッケージイノベーションセミナー 2月5日(金)

アイビーホール青学会館 サフランの間

参加者108名

「生活者の心を動かすパッケージとは—商品の魅力を伝える様々なアプローチ—」

『定番商品の更なる使いやすさ向上取り組み事例 「新ラー油キャップ」の開発』

エスビー食品(株) 執行役員 開發生産グループ 中央研究所長 大矢 肇 氏

『定番商品の更なる使いやすさ向上取り組み事例 明治「しまるボトル」シリーズ

(株)明治 研究本部 技術開発研究所 パッケージングソリューションセンター 大平 祐歌 氏

『エモーショナルデザインとパッケージデザイン』

芝浦工業大学 デザイン工学部 デザイン工学科

プロダクトデザイン領域 教授

橋田 規子 氏

『地域産品におけるパッケージデザインの勘どころと包装設計』

(株)御来屋デザイン事務所 代表取締役

本多 英二 氏

『イノベーションを起こす、ブランドストーリーの創り方』

バニスター(株) 代表取締役

細谷 正人 氏

⑤第3回包装近未来シンポジウム 3月9日(水) JPI 会議室

参加者53名

「国連SDGsから見た食品ロスへの取り組みと企業のチャレンジ課題」

『SDGsの背景と意義—日本企業への影響—』

NPO 法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事

後藤 敏彦 氏

『世界の食品ロス・廃棄の現状と解決に向けた取り組み』

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド 啓発活動担当

儘田 由香 氏

『食品ロスの現状と削減のために食品企業にできること』

(株)office3.11 代表取締役 女子栄養大学/石巻専修大学非常勤講師

井出 留美 氏

『日本の流通に対応する包装開発について』

レンゴー(株) 段ボール・紙器・軟包装部門 開発本部 包装技術部

東京包装技術第一課 課長

西川 洋一 氏

『パネルディスカッション

—2016年を起点とするパッケージの新たな成長機会を探る—』

有田技術士事務所 所長

有田 俊雄 氏

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド 啓発活動担当

儘田 由香 氏

(株)office 3.11 代表取締役 女子栄養大学/石巻専修大学 非常勤講師

井出 留美 氏

レンゴー(株) 段ボール・紙器・軟包装部門 開発本部 包装技術部

東京包装技術第一課 課長

西川 洋一 氏

NPO 法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事

後藤 敏彦 氏

⑥平成27年度医薬品包装セミナー 3月18日(金)

ソラシティカンガレンスセンター Room C

参加者102名

「安心・安全な医薬品包装に向けて」

『医薬品包装・容器の材料要求特性と適合性・安全性について』

NPO-QA センター 理事

人見 英明 氏

『第十七改正日本薬局方について』

一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団

大阪事業副所長

四方田千佳子 氏

『ファイザーにおける医薬品包装の取り組み（使いやすさ、安全の観点から）』

ファイザー(株) 生産管理部 パッケージデザイングループ

下司美由紀 氏

『医療現場における医薬品の包装・表示について—薬剤師の立場から—』

東京慈恵会医科大学付属病院 薬剤部 医薬品情報室

北村 正樹 氏

(5) 包装情報ステーション

①第56回包装情報ステーション 7月23日(木) JPI 会議室 参加者67名

『包装貨物の寸法等を中心とした規格化の現（JIS Z0105 “包装貨物・包装

モジュール寸法”と JIS Z0161 “ユニットロード寸法”改正のポイント)』

(株)日通総合研究所 物流技術環境部 主任研究員

室賀 利一 氏

②第57回包装情報ステーション 10月14日(水) JPI 会議室 参加者38名

『コンテナラウンドユースへの取り組みについて』

日本通運(株) 海運事業支店 事業統括部 部長

犬井 健人 氏

『キャノン MJ・エプソン販売における共同物流について』

キャノンマーケティングジャパン(株) ロジスティクス計画課 課長

菅原 康広 氏

(6) コース

①第21回包装新人研修コース 4月16日(木)・17日(金)

セミナーハウス『クロスウェーブ』 参加者31名

『包装の役割と包装を取り巻く現状』

凸版印刷(株) 総合研究所

加藤 武男 氏

『生活者にやさしい包装—高齢者の視点から—』

エイジング社会研究所 代表

高岡眞佐子 氏

見学先：『工場見学』見学先：

サッポロビール(株) 千葉工場

『包装に求められる包装材料とは』

水口技術士事務所 所長

水口 眞一 氏

『明日から役立つプレゼンテーション』

—グループ討議—消費者（生活者）の視点から見た優れた包装とは—

TOTAL PRONET 代表取締役

岡 利彦 氏

『包装を取り巻く規制・法律について』

オールテック(株) 社長／アイル知財事務所

白倉 昌 氏

『包装設計の基礎と考え方—設計技法と事例—』

カゴメ(株) 東京本社 業務用事業本部 業務用企画部 課長	加藤 道昭 氏
『輸送環境と包装』	
オリンパス(株) 物流推進部 企画・管理グループ 課長	藤井 幸則 氏
『商品企画とパッケージデザイン-商品づくりのプロセスとデザインの関わり-』	
大日本印刷(株) 包装事業部 企画本部 リサーチ&プランニング戦略室	
生活者情報ビジネス推進チーム リーダー	中越 出 氏

②第48回包装基礎コース

5月13日(水)~15日(金)・21日(木)~22日(金)

J P I 会議室 参加者74名

『包装概論と包装技法』

紙製容器包装リサイクル推進協議会 部長	藤井 均 氏
---------------------	--------

『【包装材料1】板紙・紙器』

(株)クラウン・パッケージ 社長付研究開発室	八木野 徹 氏
------------------------	---------

『【包装材料2】プラスチックフィルム』

ユニチカ(株) フィルム事業本部 包装フィルム営業部 市場開発グループ	大葛 貴良 氏
-------------------------------------	---------

『【包装材料3】ガラスびんと金属缶及びプラスチック容器』

アサヒビール(株)容器包装研究所容器包装開発部上席主任研究員	篠永 正晃 氏
--------------------------------	---------

『防湿包装・ガス遮断包装技法』

藤森工業(株) 研究所 グループリーダー	荒木田 真 氏
----------------------	---------

『生活者包装設計「食品包装設計の基本」』

雪印メグミルク(株) ミルクサイエンス研究所 食品加工研究室 主幹	松野 一郎 氏
-----------------------------------	---------

『パッケージデザイン概論』

凸版印刷(株) トッパンアイディアセンター 商品企画部課長 チームリーダー	山川 昌 氏
---------------------------------------	--------

『医薬品包装の基礎』

北里第一三共ワクチン(株) 研究開発本部 CMC 研究所製剤プロセス研究グループ	谷口 弘 氏
--	--------

『【包装材料4】』段ボール

王子コンテナ(株) 営業本部 CS推進部 包装技術 主任	中山 勝博 氏
------------------------------	---------

『輸送包装の実際』

三菱電機(株) ロジスティクス部 技術グループ専任	武田 正臣 氏
---------------------------	---------

『輸送包装設計』

(株)日立システムズ 保守事業推進本部ロジスティクスセンター サービスマネジメントグループ	高橋 二郎 氏
---	---------

『段ボール包装設計』

レンゴー(株) 包装技術部 東京包装技術センター 担当課長	牧内 隆文 氏
-------------------------------	---------

『ケーススタディ』

(株)トーモク 開発営業部	土谷 恒 氏
---------------	--------

雪印メグミルク(株) ミルクサイエンス研究所 食品加工研究室 主幹	松野 一郎 氏
-----------------------------------	---------

③第32回フレキシブルパッケージコース 11月13日(金) J P I 会議室

参加者76名

下山田包装技術事務所 所長

下山田 正博 氏

④第6回食品包装コース 11月30日(月)・12月15日(火)・1月26日(火)・

2月23日(火)・3月29日(火)

J P I 会議室

参加者27名

水口技術士事務所 所長

水口 眞一 氏

⑤第41回段ボール包装設計コース 2月18日(木)～19日(金) J P I 会議室 参加者46名

レンゴー(株) 包装技術部 東京包装技術第1課 部長代理

石川 淳生 氏

王子コンテナ(株) 営業本部 CS推進部 担当部長

中村 圭太 氏

⑥第11回緩衝包装設計コース 1月22日(金) J P I 会議室

参加者49名

(株)日立システムズ サービス・ソリューション事業統括本部 保守設計開発本部

ロジスティクスセンタ サービスマネジメントグループ

高橋 二郎 氏

<交 流 事 業> (公益目的事業 1)

1) 国内事業

月例見学会 (5回開催)

第285回 (株)ファンケル美健 千葉工場	5月21日(月)	参加者36名
第286回 本田技研工業(株) 埼玉製作所	10月2日(金)	参加者35名
第287回 羽田クロノゲート 見学コース	12月10日(木)	参加者24名
第288回 (株)明治 坂戸工場	1月20日(水)	参加者25名
第289回 花王(株) 川崎工場	3月10日(木)	参加者30名

2) 海外事業

(1) 欧州包装専門視察団の派遣 10月18日(日)～24日(土) 7日間 参加者 14名
スウェーデン大使館の支援のもと、同国のイエテボリにおいて開催されたスキャンパッ
ク2015の視察の他、現地包装産業の視察、現地包装関係者とのミーティングや交流会
等に参加した。

(2) アジア包装連盟 (A P F) との連携

11月24日(火)～27日(金)

トルコ・イスタンブール

理事会、総会、アジア包装会議及びアジアスター2015コンテストが開催された。行事
の一つとして実施されたアジアスターコンテストには、8ヶ国から196点のエントリー
があり、審査の結果、76点(日本の13点を含む)が本年のアジアスター賞を獲得した。

(3) 世界包装機構 (W P O) との連携

10月8日(木)～10日(日)

インド・ムンバイ

理事会、世界包装会議及びワールドスター2015コンテストが開催され、17カ国の代表が参加した。行事の一つとして実施されたワールドスターコンテストには35ヶ国から293点のエントリーがあり、審査の結果194点（日本の13点を含む）が本年のワールドスター賞を獲得した。

（4）国際包装研究機関連絡会（IAPRI）との連携

第25回IAPRI包装シンポジウム

6月8日（月）～11日（水）

スペイン・バレンシア

英国にある事務局と連携し、発表者及び参加者の募集に対する支援を行なった。

（5）海外からの包装関係者受入れ

今年度は、中国、台湾及び韓国からのグループを受入れ、交流会や情報交換を行った他、スウェーデン、米国、ドイツ、タイ等からの包装関係者を受け入れ、情報交換等を行った。

＜普及啓発事業＞ （公益目的事業 1）

1）第39回木下賞

審査選考 4月22日（水） （審査委員長 小野弘邦氏（東京大学名誉教授））

表彰式 5月29日（金）（総会時）

応募件数 31件 受賞件数 8件

A. 研究開発部門：3件

「かんたん計量機構を有する食洗機専用洗剤容器の開発」 花王(株)

「電子レンジ調理機能付きパウチ「スマデリバッグ」の開発」 凸版印刷(株)

「新剤型リキッドファンデーション用容器の開発」 (株)コーセー

B. 改善合理化部門：1件

「狙ったところに吐出しやすい「洗口剤用下向きノズルポンプ」の開発」 ライオン(株)
(株)吉野工業所

C. 新規創出部門：2件

「非常用マグネシウム空気電池「Mg BOX」（マグボックス）の開発」 古河電池(株)
凸版印刷(株)

「デジタル印刷活用による顧客期待に応えるパッケージの商品力強化」 ソニー(株)

★ 包装技術賞：2件

「薄物板用エッジ緩衝材「PEPAC」（ペパック）」 太陽インダストリー(株)

「触動作センサーを活用した「使いやすい」パッケージの開発システム」
大日本印刷(株)

審査員は10名で、経済産業省をはじめとする公的組織からの代表や学識経験者によって構成され、企業からの参加はない。

2) 2015日本パッケージングコンテスト (第37回)

審査選考 6月16日(火) (審査委員長 小野 拓邦氏(東京大学))

応募 364件、 131件が入賞 (内、14件がジャパンスター賞)

経済産業大臣賞「“感嘆” 開閉BOX「PON-PA」

TOTO(株)

審査員は18名で、経済産業省をはじめとする公的組織からの代表や学識経験者によって構成され、企業からの参加はない。

3) 2015日本グッドパッケージング展 9月11日(金)～13日(日)

船橋市・ららぽーと TOKYO-BAY「中央広場・東の広場」

入場者 11,046名

上記2)のコンテストにおいて入賞したパッケージ131点(ジャパンスター賞14点、包装技術賞38件、包装部門賞79点)の作品展示を暮らしの包装商品展2015の会場で行った。また、入賞したパッケージは、すべて選定理由を和英で作成し、雑誌「包装技術」で紹介した他、小冊子として作成し国内及び全世界に広報を行った。

4) 2015日本パッケージングフォーラム

8月27日(木)

東京ガーデンパレス 平安の間

参加者 120名

「“感嘆” 開閉 BOX「PON-PA」

TOTO(株) 衛陶設計部 衛陶生産設計グループ

石田 直樹 氏

「ペコらく 2L PET ボトル (飲料用 PET ボトル)」

(株)コカ・コーラ東京研究開発センター パッケージ開発 SME

岩下 寛昌 氏

「何でも包むノビールー現在の物流ニーズに応じた梱包革命ー」

大王パッケージ(株) 企画開発担当リーダー

寺岡 勝彦 氏

2. 展示会事業 (公益目的事業 2)

今年度は「暮らしの包装商品展2015」を9月11日(金)～13日(日)の3日間、千葉県船橋市のららぽーと東京ベイにおいて開催した。経済産業省の後援のもとで包装関係者と消費者の出会いの場として定着した本展は、都内を離れ、大型商業施設を借りての開催は初めての経験であり、心配もあったが、3日間の開催で1万人以上の来場者を得て盛況裡に開催することができた。食の信頼に向けた高度な包装技術の開発や、社会的な広がりを見せている食品のロスや廃棄の低減への取組み等、消費者の包装に対する関心が高まっている折、本展は、こうした産業界の取組みを啓発した他、産官学の分野のみならず消費者とも連携し、次世代包装について共に考える機会となった。マスコミからの関心も高く、今回もテレビニュースや新聞等で、大変インパクトある展示会として紹介された。また、今年度は東京パックの開催準備年であり、実行委員会を編成し、委員の支援のもとに内外への出品募集を中心とした活動を行った他、国内外の包装関連諸機関等を通してPR活動を行った。

1) 暮らしの包装商品展2015の開催

9月11日(金)～13日(日) 3日間

船橋市・ららぽーと TOKYO-BAY「中央広場・東の広場」

出展社：27企業及び団体 入場無料

来場者：11,046名

特別企画 ・2015 グッドパッケージング展

- ・第39回木下賞受賞作品展示
- ・クイズラリー（3択式の出題による回答・景品協賛会社からの協賛品を配布）
- ・包装みらいツリー（夢の包装や希望を紙に貼り出してもらう・167件展示）
- ・出展者イベントショー（出展社のキャラクターマスコットとの写真撮影会）

2) 国内外包装展への参加

下記展示会にて TOKYO PACK 2016 PRブースを開設した。

国内：ジャパンパック2015 10月13日(火)～16日(金) 東京ビッグサイト

Japan Exhibition Forum 2015 12月9日(水) 東京ビッグサイト

海外：台北国際包装工業展(TAIPEI PACK) 6月24日(水)～27日(土) 台北

プロパックチャイナ 7月15日(水)～17日(金) 上海

3) TOKYO PACK 2016（2016東京国際包装展）の開催準備

今年度は、実行委員会を設置し、以来4回の会議を開催し、出展社の募集を行った。

3. 調査研究事業（公益目的事業 3）

ISO/TC122(包装)は、現在までに76件の規格を発行しており、Pメンバー34ヶ国、Oメンバー44ヶ国で活動され、日本が議長及び、幹事国として10年間務めている。

今年度は、国際議長に椎名武夫氏（千葉大学大学院教授）が就任された初年度である。前年度からの継続案件を含め、活動中のプロジェクトは、13件である。それぞれの案件につき、幹事国として遅滞のないよう対応を行った。また、国際会議は、計3回、ウェブ会議が計2回実施した。

TC122に関する国内審議では、①包装のアクセシブルデザイン（ISO19809）、②物流包装用荷扱い指示シンボルマーク（ISO780）、③包装貨物試験法（ISO4180）、④幼児保護包装（ISO8317）、⑤包装用語（ISO21067-1）、⑥包装と環境（ISO21067-2）、⑦ランダム振動試験法（ISO13355）等が継続事業として実施した。

また、JIS制定・改正に関する調査研究では、①試験容器の記号表示方法（JIS Z 0201）の改正、②包装貨物・落下試験（JIS Z 0202）の改正を取り上げ、それぞれ委員会のもとで審議し、申し出を行い、一部は発行に至っている。

1) ISO/TC122(包装)の国際幹事国(事務局)としての活動

(1) 前年度からの継続案件の国際規格案、委員会案などに対応を行った。

(2) 日本からの提案で取り組むこととなったISO19809「包装のアクセシブルデザイン 情報と表示」は、CD投票段階まで進捗した。

- (3) 日本からの提案で取組むこととなったISO 780は、2015年12月に発行した。
- (4) 日本からの提案で取組むこととなったISO 4180は、NP段階まで進捗した。
- (5) ISO 8317は、2015年11月に発行した。
- (6) ISO 21067-1は、DIS段階まで進捗した。
- (7) ISO 21067-2は、2015年11月に発行した。
- (8) 日本からの提案で取組むこととなったISO 13355は、2016年内に発行の予定である。

2) ISO/TC 122 (包装)の国内審議団体としての調査研究及び活動

ISO中央事務局、TC 122、TC 122/SC 3及びSC 4の各国際幹事、各傘下のWG事務局から配信される各種の投票案件及び、会議開催などの案内、要請等に対し、国内対策委員会を編成し、会議、書面審議、海外派遣などにより対応した。主要な案件の概要は以下の通りである。

- (1) 包装とアクセシブルデザイン 情報と表示(ISO CD19809)の国際規格化
- (2) 物流包装用荷扱い指示シンボルマーク (ISO 780) 改正の調査研究
- (3) 包装貨物性能評価に関する国際標準開発 ISO 13355 改正の調査研究
- (4) 幼児保護包装の定期見直しに関する調査研究
- (5) 包装用語に関する国際標準改訂のための調査研究
- (6) 包装と環境—用語に関する国際標準の開発に関する調査研究
- (7) プール用剛性プラスチック容器の国際規格開発 (韓国提案)
- (8) 包装用ラベル・シールに関する国際規格開発 (スウェーデン提案)

3) JIS制定・改正に関する調査研究

(1) 包装と環境配慮に関するJIS (6規格) の制定

本規格は、ISO 18601 (2013)及び関連のISO 18602、ISO 18603、ISO 18604、ISO 18605、ISO 18606を基に、包装と環境配慮としてJIS Z 0130-1 (2015)「一般的要求事項」、JIS Z 0130-2 (2015)「包装システムの最適化」、JIS Z 0130-3 (2015)「リユース」、JIS Z 0130-4 (2015)「マテリアルリサイクル」、JIS Z 0130-5 (2015)「エネルギー回収」、JIS Z 0130-6 (2015)「有機的リサイクル」の6規格を制定した。これらにより、環境への負荷を減少させ、包装における効果的で、持続可能な社会の達成に貢献できる。

(2) 包装貨物の包装モジュール寸法に関するJIS Z 0105の改正

本規格は、ISO 3394 (2012) の発行に伴い、従来のJIS Z 0105 (1998)の規格を、ISO規格との整合性を図り、物流合理化を目的として、あらためてJIS Z 0105 (2015) として改正を行った。

(3) ユニットロード寸法に関するJIS Z 0161の改正

本規格は、ISO 3676 (2012) の発行に伴い、従来のJIS Z 0161 (1984)

の規格を、ISO規格との整合性を図り、包装貨物の包装モジュール寸法と同様に、物流合理化を目的として、あらためてJIS Z 0161 (2015) として改正を行った。

上記 ISO 及び JIS の調査研究は政府関連機関からの委託事業である。

4) 平成26年の日本の包装産業出荷統計に関する調査研究

包装資材容器出荷金額 5兆6,620億円 (前年 5兆5,344億 ・ 前年比102.3%)

包装機械生産金額 4,587億円 (同 4,407億 ・ 同 104.1%)

合計金額 6兆1,206億円 (同 5兆9,751億 ・ 同 102.4%)

4. 出版関連事業 (収益事業)

- 1) 機関誌「包装技術」の刊行 月刊 (3月号で通巻635号)
- 2) 「Q&A容器包装」誌の編纂 10月
- 3) 「包装技術便覧」第5版発行準備

第2 諸 会 議

- 1) 第4回定時総会 (通期では第53回) 5月29日(金) 如水会館
尾崎元規一会長の退任に伴い、浅野茂太郎副会長 (明治ホールディングス(株)会長) が新会長に就任した。
また、藤重貞慶氏 (ライオン(株)会長) が副会長に就任した。
- 2) 理事会 5月22日(金)、5月29日(金)、3月17日(木)
- 3) 常務理事会 5月22日(金)、9月17日(木)、11月12日(木)、3月17日(木)
- 4) 本支部連絡会 4月27日(月)、11月18日(水)
- 5) 各支部役員会
 - ① 関 西 支部役員会 5月27日(水)
運営委員会 6月10日(水)、12月16日(水)、3月4日(金)
 - ② 中 部 第52回役員会 6月12日(金)
運営委員会 9月11日(金)、3月18日(金)
 - ③ 西日本 運営委員会 7月24日(金)
 - ④ 北海道 運営委員会 5月27日(水)、10月16日(金)
 - ⑤ 東 北 運営委員会 6月 9日(火)、10月28日(水)

第3 行 事・そ の 他

- 1) 行事
2016包装界合同新年会 1月7日(木) ロイヤルパークホテル 参加者748名
- 2) その他
 - (1) JPI関連団体との連絡提携
日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、技術士包装物流会、

日本包装学会、等との連携

- (2) インターネットによる最新情報の提供 メールマガジン発信
- (3) 日本の包装産業界の文献情報収集と海外への紹介

1 2 回

第3 組 織

会員動勢（平成27年4月1日～平成28年3月31日）は、次の通りである。

1. 法人会員

平成27年度期首	平成27年度		
	入会数	退会数	現在数
977	36	23	990

2. 個人会員

平成27年度期首	平成27年度		
	入会数	退会数	現在数
165	20	12	173

3. 特別会員

平成27年度期首	平成27年度		
	入会数	退会数	現在数
23	1	4	20

<会員登録動勢一覧>

	平成 27 年 4 月 1 日		本 年 度		平成 27 年度 合 計
			入会	退会	
会 員 総 数	1,165		57	39	1,183
法 人	977		36	23	990
（ 口 数 ）	(1,004)		(36)	(23)	(1,017)
個 人	165		20	12	173 名
特 別 会 員	23		1	4	20 名
登 録 員 数	法人	977 社 2,625 名	36 社 98 名	23 社 46 名	990 社 2,677 名
	個人	165 名	20 名	12 名	173 名
	合計	2,790 名	118 名	58 名	2,850 名
関 東 支 部	法人	1,544	68 名	38 名	1,574
	個人	90	8 名	7 名	91
関 西 支 部	法人	531	19 名	4 名	546
	個人	31	6 名	3 名	34
中 部 支 部	法人	378	10 名	3 名	385
	個人	22	3 名	1 名	24
西日本 支部	法人	85	1 名	0 名	86
	個人	7	0 名	1 名	6
北海道 支部	法人	48	0 名	0 名	48
	個人	1	1 名	0 名	2
東 北 支 部	法人	39	0 名	1 名	38
	個人	14	2 名	0 名	16

支部事業活動報告

(関西支部、中部支部、西日本支部、北海道支部・東北支部)

1. 研修・育成事業（公益目的事業1）

< 関西支部事業 >

1) 会員フォーラム

- | | | | |
|-------------------------------------|-----------|----------------|----------|
| 第1回 | 4月15日(水) | N C Bスカイルーム | 参加者52名 |
| 「家電業界の包装改善とその変遷」 | | | |
| 三菱電機(株) ロジスティクス部技術グループ専任 | | | 武田 正臣 氏 |
| 第2回 | 6月23日(火) | N C Bスカイルーム | 参加者56名 |
| 「食品ロス削減と食品包装技術の役割」 | | | |
| 日本食品包装協会 理事長 | | | 石谷 孝佑 氏 |
| 第3回 | 7月22日(水) | N C Bスカイルーム | 参加者54名 |
| 「食品表示基準および機能性表示制度の対応とポイント」 | | | |
| (株)ラベルバンク 代表取締役 | | | 川合 裕之 氏 |
| 第4回 | 8月26日(水) | N C Bスカイルーム | 参加者64名 |
| 「サントリーにおける包材開発～水性フレキシソ印刷ラベルの導入～」 | | | |
| サントリービジネスエキスパート(株) | | | |
| 執行役員 S C M本部包材開発部長 兼 新包材技術開発推進部長 | | | 高田 宗彦 氏 |
| 「デジタル印刷で商品価値を最大化するパッケージ戦略」 | | | |
| (株)日本HP デジタルプレスビジネス統括本部テクニカルマネージャー | | | 土田 泰弘 氏 |
| 第5回 | 9月16日(水) | N C Bスカイルーム | 参加者66名 |
| 「段ボールの擦れ・紙粉発生について～再現条件とその対策～」 | | | |
| あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター環境材料室主任研究員 | | | 佐藤 幹彦 氏 |
| 第6回 | 10月21日(水) | N C Bスカイルーム | 参加者56名 |
| 「これからのネット通販における新たな包装」 | | | |
| センコー商事(株) 常務取締役営業本部長 | | | 小路 敏之 氏 |
| 取締役ソリューション事業部長 | | | 酒井 栄一 氏 |
| 第7回 | 11月10日(火) | 大阪市中央卸売市場本場見学会 | 参加者34名 |
| 第8回 | 12月16日(水) | N C Bスカイルーム | 参加者63名 |
| 「国内外における食品包装規制の最新動向 ～企業としての対応と留意点～」 | | | |
| 日本包装専士会 顧問 | | | 西 秀樹 氏 |
| 第9回 | 2月17日(水) | N C Bスカイルーム | 参加者72名 |
| 「超高齢化社会に求められる包装」 | | | |
| エイジング社会研究所 代表 | | | 高岡 眞佐子 氏 |

第10回 3月9日(水) 大阪府立大学 植物工場研究センター見学会 参加者36名

2) 生活者包装研究懇談会

第1回 6月11日(木) サントリー山崎蒸留所/エーザイ(株) 川島工園
および内藤記念くすり博物館見学会 参加者47名

第2回 9月9日(水) NCBスカイルーム 参加者70名
「花王ユニバーサルデザインへの取り組み事例」

ワンプッシュ液体計量容器の開発

花王(株) 包装容器開発研究所1室 大杉 崇氏

スポンジアップコンパクトケースの開発

花王(株) 包装容器開発研究所3室 竹内 順子氏

「PTPシートの色・表示に関する研究」

東京理科大学 薬学部教授 上村 直樹氏

第3回 12月2日(水) NCBスカイルーム 参加者51名

「電子レンジ対応の包装技術の動向～国内外の最新事情～」

住本技術士事務所 所長 住本 充弘氏

「固形製剤へのマーキング技術」

クオリカプス(株) 機械事業部機械営業部 鶴島 洋和氏

第4回 2月24日(水) NCBスカイルーム 参加者69名

「医療用医薬品のパッケージ包装と薬剤師業務の国際動向」

東京理科大学 経営学部教授 坂巻 弘之氏

「ハラル認証と食品包装資材」

(株)フードテクニカル・ラボ 代表取締役 伊藤 健氏

3) 第22回包装基礎コース 5月13日(水)～15日(金)

NCBスカイルーム

参加者30名

「包装概論」 (公社)日本包装技術協会 管理本部長

園山 洋一氏

「板紙・紙器」 大日本印刷(株) 包装事業部企画本部デザイン戦略部

プロダクトデザイングループリーダー

飯島 淳氏

「段ボール」 レンゴー(株) 包装技術部大阪包装技術第一課課長

杉田 裕紀氏

「プラスチック容器・金属缶」 東洋製罐(株) 環境・品質保証本部

品質保証部茨木品質課長

上床 博明氏

「ガラス容器」 日本山村硝子(株) ガラスびんカンパニー生産本部

技術開発部型成形チームリーダー

前田 泰志氏

「プラスチックフィルム」 ユニチカ(株) フィルム事業部

フィルム品質保証部長

中野 功氏

「輸送包装技法」 シャープ(株) 品質推進部参事

成木 裕一氏

「生活者包装技法」 凸版印刷(株)

関西生活・産業事業部商品開発部部长

桃川 公一氏

- 4) 第9回緩衝包装設計実践コース 10月28日(水)
 (地独)大阪府立産業技術総合研究所 参加者8名
 「緩衝材についての基礎知識・緩衝設計のための力学の基礎・緩衝理論～緩衝設計とは～」
 (地独)大阪府立産業技術総合研究所 製品信頼性科包装・振動緩衝主任研究員 津田 和城 氏
 「発泡プラスチック緩衝材の設計手順/検討・グループ演習/評価試験設備の見学」
 シャープ(株) 品質推進部参事 成本 裕一 氏
- 5) 第42回段ボール包装設計実習コース 1月28日(木)～29日(金)・3月16日(水)～17(木)
 関西生産性本部・アイロップ(株) 参加者31名
 「包装材料の中の段ボール・包装貨物試験・今後の包装設計」
 レンゴー(株) 包装技術部大阪包装研究所第一課部長代理 熊谷 知久 氏
 「実習」
 アイロップ(株) 包装技術部サブマネジャー 吉木 宏 氏
 アイロップ(株) 包装技術部リーダー 脇田 明和 氏
- 6) 第50期包装管理士講座 大阪会場講義
 材料教科 6月16日(火)～18日(木) リーガロイヤルNCB 91名
 生活者包装コース 6月30日(火)～7月3日(金) リーガロイヤルNCB 52名
 輸送包装コース 7月7日(火)～10日(金) リーガロイヤルNCB 39名
 合格証書授与式 10月23日(金) リーガロイヤルNCB 51名
- 7) 新春記念講演会 1月13日(火) リーガロイヤルNCB 222名
 「需要創造に向けた小売業の変革」
 (株)マツモトキヨシホールディングス 専務取締役
 (株)マツモトキヨシ 社長 成田 一夫 氏

< 中部支部事業 >

- 1) 研究例会
- (1) 包装資材研究例会 6月24日(水) 愛知県産業労働センター 参加者60名
 『機能性フィルムと機能性食品表示の概要および耐震パレットによる防振対策について』
 「水溶性フィルム 無限の可能性」
 (株)アイセロ マーケティング本部 第3ビジネスユニット ディレクター 杉山 慎 氏
 「新食品表示基準～表示実施者が留意すべき事項～」
 東京海洋大学 先端科学技術研究センター 教授 湯川 剛一郎 氏
 「防振パレット並びに特殊物流資材を用いた安全輸送の実現」
 日本通運(株) 名古屋航空支店 国際貨物部 係長 河村 洋司 氏
 日通商事(株) 名古屋支店 営業推進部 係長 水野 貴文 氏
- (2) 輸送包装研究例会 7月23日(木) 愛知県産業労働センター 参加者59名
 『物流環境や包装試験設備を活用した包装改善と
 実測データに基づくランダム振動試験条件について』
 「物流環境や包装試験設備を活用した物流会社の包装改善について」
 三菱電機ロジスティクス(株) 物流技術部パッケージエンジニアリンググループ 山下 徹 氏
 「国内実測データに基づくランダム振動試験条件の策定」

- (3) 生活者包装研究例会 9月16日(水) 愛知県産業労働センター 参加者64名
『パッケージデザインの価値および大日本印刷における軟包装開発製品について』
「50品目調査から分かった、パッケージデザインの値段」
日経デザイン 編集長 丸尾 弘志 氏
「大日本印刷の軟包装開発製品とその取り組み方」
大日本印刷(株) 包装事業部開発本部製品開発部パッケージ開発チーム リーダー 大塚 康司 氏

- (4) 包装技術研究例会 10月22日(木) 愛知県産業労働センター 参加者84名
『包装製品の試作事例と中国における最新包装事情』
「TOTOにおける段ボール試作事例～“感嘆” 開閉BOX「PON-PA」ほか～」
TOTO(株) 衛陶設計部 衛陶生産設計グループ 石田 直樹 氏
「何でも含むノビール - 現在の物流ニーズに応じた梱包革命 - 」
大王パッケージ(株) 企画開発担当 待場 歩 氏
「中国華東地区の最新包装事情」
上海新通朕包装股份有限公司 杉山 貴司 氏

- (5) 包装技術講習会 11月12日(火) 愛知県産業労働センター 参加者69名
『精密電子機器部品における輸送包装の実例と
落下シミュレーション(PAOSS™)を用いた設計事例』
共催：あいち産業科学技術総合センター
「精密電子機器部品における輸送包装の実例」
(株)日立システムズ 保守事業推進本部ロジスティクスセンタ 高橋 二郎 氏
「緩衝包装設計の基礎と落下シミュレーション(PAOSS™)を用いた設計事例」
旭化成ケミカルズ(株) 樹脂製品事業部フォーム製品営業部 高田 幹生 氏

(6) 第50期包装管理士講座 大阪会場講義

材料教科	6月17日(水)～19日(金)	愛知県産業労働センター	70名
生活者包装コース	6月30日(火)～7月3日(金)	愛知県産業労働センター	21名
輸送包装コース	7月7日(火)～7月9日(木)	愛知県産業労働センター	49名
合格証書授与式	10月16日(金)	ホテルキャッスルプラザ	参加者59名

2) 講演会

- 第52回定時講演会 6月12日(金) ホテルキャッスルプラザ 参加者110名
「燃料電池自動車「MIRAI」の開発及びその魅力と水素社会実現に向けたチャレンジ」
トヨタ自動車(株) 製品企画本部チーフエンジニア 田中 義和 氏

3) 第55回包装技術研究大会中部大会

- 2月18日(木) 愛知県産業労働センター 参加者88名
「直管型LEDランプの段ボール包装材開発」
中津川包装工業(株) 営業本部設計室 三世 亜実 氏
「コンデンサ包装の包装材重量削減によるコスト削減」
刈谷紙器(株) 営業部営業1課 木虎 裕晶 氏
「コンテナ輸送専用包装による積載効率および作業性の改善」

(株)アイセロ 物流部物流課 「レンジ加熱対応 透明耐熱 P L A 容器の開発」	大竹 範敬 氏
リスパック(株) 技術開発本部技術開発部主任 「振動試験機による包装貨物の跳ね上がり再現」	後藤 武士 氏
あいち産業科学技術総合センター産業技術センター 技師 「ペコらく 2 L P E T ボトル」(飲料用 P E T ボトル)」	飯田 恭平 氏
(株)コカ・コーラ 東京研究開発センター S M E 「カメレオンコードで変る 高速・複数一括による認識革命」	岩下 寛昌 氏
(株)シフト 営業部部長 「QR コード(R)の最新動向・活用と展望」	藤田 朋彦 氏
(株)デンソーウェーブ システムソリューション部室長	田野 敦 氏

4) 第 2 9 回包装研究懇話会

3 月 9 日(水) あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター見学 参加者 1 2 名

5) 第 2 5 回包装設計の基礎講座

5 月 2 1 (木)～2 2 日(金) 愛知県技術開発交流センター 参加者 3 3 名

〈包装概論〉	
ヤマハ(株) 物流システム部 企画推進室 担当課長	小澤 秀人 氏
〈段ボール箱の基礎と応用〉	
ダイナパック(株) 製品開発部製品開発グループ課長	下山 公章 氏
〈段ボール箱の設計〉	
ダイナパック(株) 製品開発部製品開発グループ課長	下山 公章 氏
〈段ボール箱の製作〉	
ダイナパック(株) 製品開発部製品開発グループ課長	下山 公章 氏
〈緩衝包装設計〉	
あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター 環境材料室主任研究員	佐藤 幹彦 氏
〈包装試験の目的と試験法〉	
あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター 環境材料室 主任研究員	飯田 恭平 氏
〈包装試験施設の見学〉	
あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター環境材料室	物流技術担当
〈機能性プラスチック包装材料〉	
(株)アイセロ マーケティング本部プロダクトマネージャー	工藤 洋平 氏
〈積載効率を上げる集合包装	
日東電工(株) 基盤機能材料事業部門 専門機能本部環境安全本部	八束 伸明 氏
〈包装改善とロジスティクス〉	
N G K ロジスティクス(株) 業務部副部長	矢島 泰人 氏
技術・情報グループ マネージャー	山田 勝久 氏

< 西日本支部事業 >

1) 講演会

(1) 本部総会説明会記念講演 7 月 2 4 日(金) I P シティホテル福岡 参加者 2 0 名

「九州経済の動向について」

シンクタンク・バードウィング(九州経済社会研究所) 代表

鳥丸 聡 氏

(2) 2015 包装事例研究発表会 11月6日(金) IPシティホテル福岡 参加者40名

(3) 第50期包装管理士講座(福岡会場)

材料教科 6月17日(水)～19日(金) IPシティホテル福岡 参加者41名

輸送包装コース 7月7日(火)～10日(金) IPシティホテル福岡 参加者23名

合格証書授与式 11月6日(金) IPシティホテル福岡 参加者42名

2) 第53回全日本包装技術研究大会(福岡大会)

11月19(木)～20日(金) 電気ビル共創館 参加者339名

<北海道支部事業>

1) 講演会

(1) 定時特別講演会 6月24日(水) 札幌全日空ホテル 参加者50名

「青果物の品質を守るための包装技術」

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所

食品工学研究領域 食品包装技術ユニット 主任研究員 北澤 裕明 氏

(2) 包装懇話会 11月27日(金) ニューオータニイン札幌 参加者28名
(日本包装管理士会北海道支部と共催)

『食品に対する危害と安全性を確保するにはどうするか』

「クレーム対策に役立つ異物検査～分析手法と事例の紹介～」

(一財)日本食品分析センター 多摩研究所 試験研究部応用試験課 山田 瑠美子氏

「フードディヘンズやリコール問題について」

(一財)日本食品分析センター 学術顧問 / 北海道大学 名誉教授 一色 賢司 氏

(3) 新春研究会 1月21日(火) ニューオータニ院札幌 参加者27名
(日本包装管理士会北海道支部と共催)

「北海道観光の現場から『産業観光と世界遺産』

(株)日本旅行北海道 新規事業室長 永山 茂 氏

<東北支部事業>

1) 講演会

(1) 特別講演会 6月8日(月) ハーネル仙台 参加物62名

(東北生産性本部・東北IE協会共催)

「最近の金融経済情勢について」

日本銀行 仙台支店長 竹澤 秀樹 氏

(2) 包装講演会 2月23日(火) 仙台商工会議所会館 参加物20名

(宮城県消費者協会共催)

「いきいきとした暮らしのために ～オーラルケアと長寿社会～」

ライオン(株) 仙台オフィス総務室 榎本 高将 氏

「キッコーマンの容器包装開発への取り組み」

キッコーマン食品(株) 商品開発本部設備開発部容器包装開発チーム
チームリーダー兼プロダクト・マネージャー室管理グループ 副参事

桑垣 傳美 氏

(3) 東北支部包装技術研究発表大会

10月28日(水) 仙台商工会議所会館

参加者44名

「部品【ヒートポンプ】の包装改善」

東北小旗(株) 本社営業所 所長代理

浅野 光一 氏

「包装仕様見直しによる包装作業性向上」

YKK AP(株) 生産本部 東北事業所 住宅製造部 生産技術室

明永 貴志 氏

「カレールー用外装箱の両面段ボール化による包装改善」

レンゴー(株) 東北事業部 青森工場 営業課

藤林 龍耶 氏

「いちご宙吊りケースの改良」

三共木工(株) 営業部主任

武井 信幸 氏

「緩衝材のプレス加工時に発生するタイコの条件と原因」

(有)仙台フォーム

吉田 裕子 氏

「牛タン販売ケースの仕様変更による包装改善」

(株)丸定 仙台営業所 販売課主任

檜崎 圭 氏

「工数削減に優れるO4組立式ケースの包装提案」

(株)丸定 営業本部 販売部販売課

情野 拓也 氏

「段ボールによる重量物梱包時における底トレイと外装箱の連結についての提案」

(株)トーモク 仙台工場 販売課 セールスチーフ

馬場 健太郎 氏

「PET向けケース胴膨れの改善」

王子コンテナ(株) 福島工場 営業部

松田 英輔 氏

「ボイル・レトルト殺菌された包装材料の検査方法、およびその検査方法を用いて

作製したガスバリア製フィルム付与の包装材料の製造方法」

東レフィルム加工(株) 福島加工フィルム開発部 包装材料グループ主任 奥谷 祐紘 氏

「PS素材の特徴を活かした寿司容器の開発」

福助工業(株) 仙台営業所 営業課主任

大勝 創 氏

「きゅうりのP-プラスフィルム包装による

一般穴あきOPP防曇フィルム包装からの鮮度保持改善」

(株)高速 山形営業所 主任

穴戸 達也 氏

(4) 第50期包装管理士講座(仙台会場)

材料教科 6月23日(火)～25日(木)

仙台商工会議所会館

参加者23名

輸送包装コース 7月9日(木)～10日(金)・16日(木)～17日(金)

仙台商工会議所会館

参加者12名

合格証書授与式 10月28日(水)

仙台商工会議所会館

参加者22名

- (5) 新年講演会 1月22日(金) 江陽グランドホテル 参加者44名
「2015年ヒット商品の総括と2016年を予測する」
～ヒット商品の裏側にある生活者の意識と行動～
(株)博報堂 第1プランニング局 シニアストラテジックディレクター 鶴 真彦 氏

2. 交流・普及啓発（公益目的事業1）/ 行事・その他

< 関西支部 >

- 1) 新春会員交流会 1月13日(火) リーガロイヤルNCB 参加者222名

< 中部支部 >

- 1) 中部包装界新年賀詞交歓会 1月13日(水) ホテルキャッスルプラザ 参加者157名
2) 見学会 10月7日(水) 明治なるほどファクトリー愛知 参加者45名
記念講演 「明治の包装開発について」
(株)明治 研究企画部 参与 太田 進 氏

< 西日本支部 >

- 1) 企業見学会
第1回 2月26日(金) (株)安川電機ロボット工場(北九州市) 参加者30名
第2回 3月18日(金) 日産自動車九州(株)九州工場見学会(北九州市) 参加者27名

< 北海道支部 >

- 1) 賀詞交歓会 1月21日(木) ニューオータニイン札幌 参加者27名
2) J P I 北海道支部・I P P 北海道支部合同親睦会
7月22日(水) 北海道ビール園 参加者26名
3) 企業見学研究会 10月22日(木) 北海道電力(株)泊発電所 参加者37名
(北海道生産性本部と共催)
4) 2015札幌パックへの参加 6月17日(水)～19日(金) アクセスサッポロ
来場者17,202名

< 東北支部 >

- 1) 2016年新年名刺交換会 1月22日(金) 江陽グランドホテル 参加者44名